

## 新春講演会・レポート

小島 武雄

日時：2020年1月26日（日）13：50～

会場：ホテルリガーレ春日野

講師：木村全邦（きむらまさくに）氏

「森と水の源流館」企画調査班班長

講演会参加者 51 名、懇親会参加者 32 名

演題：

「生物多様性とつながる私たちの暮らし

自然が大事なものは何で？」

木村先生は吉野郡川上村のコケ植物の研究者で

す。以前当  
会の月例研  
修で「森と  
水の源流館」  
に伺った時  
の印象がと  
ても強く、



ぜひと講演をお願いしました。当日はご家庭の事情で小さな子供さんを連れての講演となりました。会場の片隅の机にはミニカーが数台置かれ、DVDプレイヤーにアニメまで用意してくださいました。小さなゲストは絶えず動き回りスクリーンを揺らしたり、小さな歓声をあげたり、ぐずると先生がお子さんをしばし抱き上げたりでしたが、進行には特に支障なくほほ笑ましく見守りました。

川上村は、吉野川の源流に位置しますが、住民は水不足や水害に苦しみました。下流の洪水対策もあり、大滝ダムの建設が要望されました。

川上村は大半がダムに沈むなど反対運動が起きましたが、森林資源のパルプ材伐採が行われなように行政が森を買い取り伐採から守り、天然林を切れば元に戻るには何百年もかかるため、740haの自然の森を買収、その10億円は実に当時の年間予算の5分の1を使った事。そしてダム完成後、住民は川上村の良いところを見直しました。美しい森と美しい水が流れている。森を守り森を活かすように、水源地の案内、森づくりの再生、和歌山市民の森資金、関西電力の労働組合の協力など、変わってきた様子を話されました。

森の役割は、生物多様性・地球環境保全・自然災害防止・水源保全機能・森に入ること健康面・資源利用など。またブナの木1本、水1石などが紹介され、生物多様性の話へ。バーチャルウォーターの話では、身近な牛丼一杯には2000Lの水が必要で、内訳は牛肉の牛を育てるのに1440L、お米に400L、玉ねぎに60Lなど。必要な大量の水は、アメリカ、カナダ、オーストラリアから輸入していることとなります。

地球上の全人類が日本人と同じ生活をすれば地球が2.5個必要になる計算です。地球の身の丈に合うように上手に資源を利用する必要があります。

サステナブル、開発目標 GOALS (ゴールズ)、国際連合17の目標について、環境保全活動家の16才のグレタさんは、誰のための条約か未来の人のためと訴えました。

生物多様性と自然の問題は、世代を超え多様性のもと一つ一つ解決して未来へ引き継ぐと締めくくられ、あっという間の1時間半でした。

講演会終了後、庭の見える会場に場所を替えての懇親会では木村先生より、吉野林業にとどまらずに多方面で活躍された、「日本林業の父」土倉庄三郎さんのお話を伺いました。各地に広めた造林法、林業の要のため川の浚渫（しゅんせつ）や道路の拡張などを行った功績。自らの財産を3分の1は国のため、3分の1は教育のため、3分の1は事業のためとし将来に向けての十分な支援をされた事。明治初期に薪にされようとした吉野の桜を買い戻されたおかげで、今私たちは桜を楽しむことができます。川上村に小学校を作られ、同志社大学設立の新島襄に出資されました。女子の高等教育ための寄付。自由民権運動の板垣退助の洋行費用が提供されたことなどが伺えました。

このような人が奈良におられたことに感謝し、感動し、誇りに思えました。

